

ヨーロッパにおける天理教の伝道の諸相⑥

フランスにおける日本語教育機関数と学習者数の推移

前回(2025年3月号)では、天理日仏文化協会の活動の芯である天理日本語学校について、その設立のねらいと社会的背景を概観した。その中で、フランスにおける日本文化や日本語学習への関心の高まりについても触れたが、とくに日本語学習への関心は今後紹介する内容にも関わるので、今回からその大まかな傾向を見ていきたい。

筆者が確認した限りでは、海外の日本語教育に関する資料は1967年から公開されており、1975年以降は主に国際交流基金(1972年に外務省所管の特殊法人として設立、2003年に独立行政法人化)が中心となって調査の実施ならびに報告書の公開をしている。これらの公開された資料をもとに、1967年から近年までの推移をまとめたのが、以下の「フランスの日本語教育機関数」(表1)と「フランスの日本語学習者数」(表2)である。表では、フランス全体の数字に加えて、学校教育以外の数字も記載しているが、これは天理日本語学校がそのカテゴリーに含まれるからである。

では、まずはフランス全体の日本語教育機関数と学習者数を見てみよう。表を見た限りでは、教育機関数も学習者数も概ね右肩上がりになっており、とくに1980年前後から1990年前後にかけては増加率が高いことが窺える。天理日仏文化協会長を務めていた岩切耕一は、この年代に顕著な出来事として、日本のバブル経済とフランスにおける日本語教育の広がりを指摘している(岩切 2007: 12)。実際にフランスの日本語教育については、1970年代半ばから高校卒業試験のバカロレアに日本語が第1、第2、第3外国語として選択できるようになり、また1980年代には中等教育で、1990年代には初等教育でも日本語教育が始まっている(国際交流基金 2023b: 9-10)。尚、2006年から2009年の間には機関数が29カ所減っているが、これは統合や閉鎖に陥った機関があったことや、調査に対して無回答だった機関の割合が高かったことが理由とされ、日本語学習自体に対する関心は維持されているとされる(国際交流基金 2011: 85)。

一方で、学校教育以外の日本語教育機関数と学習者数はまっすぐに右肩上がりしておらず、年代によって上下が見られる。機関数は、1990年代前半には大きな伸びはなく、1998年前後

に一度大きく増え、その後2009年前後にかけて緩やかに減少した後、2012年頃からまた増加傾向に移っている。また、学習者数についても上下が見られ、とくに1990年代には大きな増減が見られる。これは日本側ではバブル崩壊による政治的不安定化に加えて、阪神淡路大震災や地下鉄サリン事件が起り、またフランス側では90年代に不景気となり、さらに1996年のフランス核実験によって日仏関係が冷え込んだことが関係しているとされる(岩切 2007: 12)。

[引用文献]

*紙幅の都合で、日本語教育機関関連の資料は副題を省略し、編者と出版社が同一のものは統合した。

岩切耕一(2007)「出向帰本報告—天理日仏文化協会での勤務を終えて(4)—文化協会の会員について」『天理教海外部報』第511号、p. 12。

国際学友会編(1967)『海外における日本語教育機関一覧(大洋州・ヨーロッパ州・アメリカ州編)』国際学友会。

国際交流基金「海外日本語教育機関調査」<https://www.jpff.go.jp/j/project/japanese/survey/result/>(2025年3月31日閲覧)

国際交流基金編(1975、1981)『海外日本語教育機関一覧』国際交流基金。

国際交流基金編(1987)『海外日本語教育機関一覧』凡人社。

国際交流基金編(2005、2008、2011、2017、2020、2023a)『海外の日本語教育の現状』国際交流基金。

国際交流基金編(2013)『海外の日本語教育の現状』くろしお出版。

国際交流基金編(2023b)「日本語教育国・地域別情報—フランス(2023年度)」<https://www.jpff.go.jp/j/project/japanese/survey/area/country/2023/france.pdf>(2025年3月31日閲覧)

国際交流基金日本語国際センター編(1992)『海外の日本語教育の現状』大蔵省印刷局。

国際交流基金日本語国際センター編(1995、2000)『海外の日本語教育の現状』国際交流基金日本語国際センター。

出版文化国際交流会編(1970)『世界の日本語教育機関一覧』出版文化国際交流会。

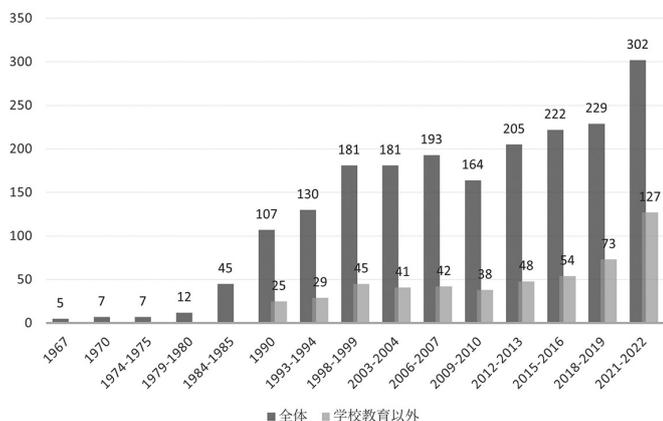


表1. フランスの日本語教育機関数(出典:国際学友会 1967、国際交流基金 1975、1981、1987、2005、2008、2011、2013、2017、2020、2023a、国際交流基金日本語国際センター 1992、1995、2000、出版文化国際交流会 1970。2015年度、2018年度、2021年度については、国際交流基金ホームページ上に掲載の集計表も参照。)

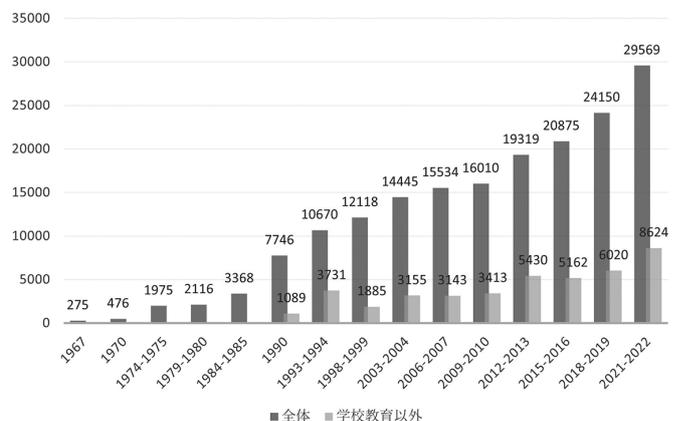


表2. フランスの日本語学習者数(出典は表1と同じ)